馬耳東風

いわゆる民俗学は，風俗や習慣，伝説，民話，歌謡，生活用具，家屋など古くから民間で伝承されてきた有形，無形の民俗資料をもとに，人間の営みの中で伝承されてきた現象の歴史的変遷を明らかにし，それを通じて現在の生活文化を相対的に説明しようとする学問とされ，人間の生き様や土の臭がぷんぷん感じられる．洋の東西を問わない昨今の近代化の波は，生活様式の変化や合理化の進行とともに次第に民俗資料を失いつつある．地域に連綿と伝承されてきたものの再点検が叫ばれ，消え行く伝統文化へのロマン主義的な憧憬やナショナリズムの高まりとともに誕生した若い学問で，通常フォウクロアfolkloreの訳語だそうだ．とくに自然界と共生しながら生活する農山村集落は，多様な有形無形の民俗文化の宝庫だ．それは育んでくれた人や山河へのそこはかとない郷愁を誘い，ゆとりと癒しの人生の空間を与えてくれる存在だ．固有の地方史をはじめ，地域産物に焦点を当てた地域見直し運動や一村一品運動がことのほか注目されてきている．「○○と言ったら△△だ」というような，代名詞的にリンクするいわゆるご当地ものだ．地域独特の風土やそこから醸し出される風情は，人はもとより農産物に限らない固有の味わいを見せてくれる．実に素直な郷土愛の原点だ．生活に根付いた現地との接点では，当然ながら農山村における伝承民俗に出会う機会が多いはずである．縄文以来人々は，生きる出発点として集落を形成してきた．単独で生きられない人々の知恵は，連帯のあり方にさまざまな方策を求めてきた．求心力は食料の維持と集落の安泰にあったはずだ．神々のおわす自然への畏敬と感謝であり，先祖の魂が見守ってくれることであった．仏教伝来は国家の統治や人々の生き方に深くかかわり，いつの間にか神仏は一体となって生活の奥深くに存在した．「お天道様と米の飯はついてまわる」「お天道様は何から何までお見通しだ」と．太陽が生命体の根源であり，その神格化を誰も疑わない．集落は社寺を核として形成され，神仏は古くから日本人の精神構造の奥深くに存在してきた．「五穀豊穣と安泰」が神仏への祈願であり，その祈りの形が奉納となってお祭りに代表される多様な無形民俗文化財を自律伝承し，時には地域問題の解決を醸成してきた．

ハインリヒ獅子公で有名なバイエルン州はシンボルもライオンである．数年前のこと，上谷ヶ貫獅子舞（かみやがぬきししまい）がドイツで公演した．天狗面の猿田彦命（さるだひこのみこと）が道案内し，3匹獅子，篠（ささら）4，笛方，唄方を含め17名で日本の村祭りを教会前で舞い，ドイツの子ども達にお守りを配った．異文化民俗交流である．あちらの鼓笛隊の直線的行進と違い，東洋の獅子舞は心の舞である．教会を核とする集落形成は日本とおなじようだ．しかしながら，マイスターの国の人々は競争に頼らない環境と歴史の中にゆっくり生きていると実感した．（柏）